

1. 本県沿岸の藻場の状況

【平成29年・平成30年藻場面積調査】

内房：岩礁面積に対する藻場面積の割合 43.4% (藻場面積1,034 ha)
 外房： " 87.0% (" 2,312 ha)

※近年、水産総合研究センターの調査により、富津市や館山市の地先等で新たな藻場消失が確認され、磯焼けの範囲拡大がみられている。

2. 県の取組

2-1 「藻場の保全・回復に向けた取組指針」を策定し目標を設定 (H30・R元年度)

内房：岩礁全体が藻場に覆われていたとされる平成20年頃の状態を藻場のあるべき姿として、地区ごとに藻場の保全・回復を目指す。
 外房：平成30年度の藻場の状況を維持する。

2-2 これまでの取組概要



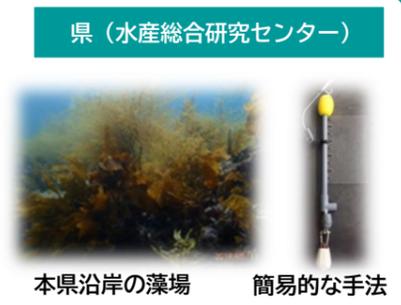
2-3 令和4年度の取組 (磯焼け緊急対策事業)

藻場消失状況の把握と原因推定

…天羽地区において、海藻及び食害生物の分布状況と藻場衰退の原因を調べ、漁業者に回復の取組を指導・支援

簡易的な藻場実態把握手法の確立

…潜水によらず藻場の状況を把握できる手法の開発・実証



内房海域での藻場回復対策

- ① 刺網による植食性魚類の駆除
- ② 海藻の胞子の供給 (スポアバックの投入)

外房海域での藻場保全対策【新規】

- ① 藻場のモニタリング
- ② 刺網による植食性魚類の駆除



海域の特性に合わせた藻場回復手法の実証【新規】

県 (漁業資源課等)

① ガンガゼ類駆除



ガンガゼ類2,900個体駆除 (速報値)

② 岩盤清掃



60mの岩盤を清掃